

1. 決まり字「やえ」の歌の下の句はどれでしょう。
ア みをつくしてや 戀ひわたるべき
ウ 人こそ見えね 秋はきにけり
イ 龍田の川の 錦なりけり
エ 山の奥にも 鹿ぞなくなる
2. 決まり字「よも」の歌の下の句はどれでしょう。
ア わが衣手は 露にぬれつつ
ウ 焼くや藻塩の 身もこがれつつ
イ ねやのひまさへ つれなかりけり
エ まつとし聞かば 今帰り来む
3. 「小倉山 峯のみち葉 心あらば」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 花ぞ昔の 香にほひける
ウ あしのまろやに 秋風ぞ吹く
イ 今ひとたびの みゆき待たなむ
エ 濡れにぞ濡れし 色はかはらず
4. 「百敷や 古き軒端の しのぶにも なほあまりある 昔なりけり」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 元良親王
ウ 順徳院
イ 源重之
エ 菅家
5. 決まり字「おも」の歌の下の句はどれでしょう。
ア みをつくしてや 戀ひわたるべき
ウ 海士の小舟の 綱手かなしも
イ 憂きに堪へぬは 涙なりけり
エ 雲居にまがふ 沖つ白浪
6. 「白露に 風の吹きしく 秋の野は」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 人の命の 惜しくもあるかな
ウ 雲がくれにし 夜半の月かな
イ つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける
エ 流れもあへぬ 紅葉なりけり
7. 「明けぬれば くるものとは 知りながら なほ恨めしき 朝ぼらけかな」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 皇嘉門院別当
ウ 藤原道信朝臣
イ 光孝天皇
エ 藤原清輔朝臣
8. 「侘びぬれば 今はた同じ 難波なる」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 身をつくしても 逢はむとぞ思ふ
ウ 流れもあへぬ 紅葉なりけり
イ 人にはつげよ あまの釣舟
エ 濡れにぞ濡れし 色はかはらず
9. 「これや此の 行くも帰るも 別かれては 知るも知らぬも 逢坂の関」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 祐子内親王家紀伊
ウ 伊勢
イ 源宗行朝臣
エ 蟬丸
10. 決まり字「うか」の歌の下はどれでしょう。
ア 人にはつげよ あまの釣舟
ウ はげしかれとは 祈らぬものを
イ 身をつくしても 逢はむとぞ思ふ
エ わが身ひとつの 秋にはあらねど

1. 決まり字「うら」の歌の下の句はどれでしょう。
ア いくよ寝覚めぬ 須磨の関守
ウ はげしかれとは 祈らぬものを
イ 長くもがなと思ひけるかな
エ 戀に朽ちなむ 名こそ惜しけれ
2. 決まり字「おと」の歌の下の句はどれでしょう。
ア かこち顔なる わが涙かな
ウ 山の奥にも 鹿ぞなくなる
イ むべ山風を あらしといふらむ
エ かけじや袖の ぬれもこそすれ
3. 決まり字「ゆら」の歌の下の句はどれでしょう。
ア 身をつくしても 逢はむとぞ思ふ
ウ 今一たびの 逢ふこともがな
イ 行方もしらぬ 戀の道かな
エ 憂きに堪へぬは 涙なりけり
4. 「高砂の 尾の上の桜 咲きにけり 外山の霞 立たずもあらなむ」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 中納言兼輔
ウ 権中納言匡房
イ 素性法師
エ 参議等
5. 「玉の緒よ たえなば絶えね ながらへば」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア しづごころなく 花の散るらむ
ウ みをつくしてや 戀ひわたるべき
イ つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける
エ 忍ぶることの 弱りもぞする
6. 「此の度は 幣もととりあへず 手向山」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア われても末に 逢はむとぞ思ふ
ウ 晝は消えつつ ものをこそ思へ
イ さしも知らじな もゆる思ひを
エ 紅葉の錦 神のまにまに
7. 「ちはやぶる 神代も聞かず 龍田川」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア ものや思ふと 人の問ふまで
ウ しろきを見れば 夜ぞふけにける
イ あはで此の世を すぐしてよとや
エ から紅に 水くくるとは
8. 決まり字「あけ」の歌の下はどれでしょう。
ア なほあまりある 昔なりけり
ウ なほ恨めしき 朝ぼらけかな
イ みかさの山に 出でし月かも
エ をとめの姿 しばし留めむ
9. 「きりぎりす なくや霜夜の さむしろに」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 衣かたしき 獨りかも寝む
ウ 有明の月を 待ち出でつるかな
イ 我が身世にふる ながめせしまに
エ わが身ひとつの 秋にはあらねど
10. 「久方の 光のどけき 春の日に」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア ながながし夜を ひとりかもねむ
ウ いでそよ人を 忘れやはする
イ みだれて今朝は ものをこそ思へ
エ しづごころなく 花の散るらむ

1. 「夜をこめて 鳥のそら音は はかるとも」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 故郷寒く 衣うつなり
ウ もれ出づる月の 影のさやけさ
イ 世に逢坂の 関はゆるさじ
エ なほあまりある 昔なりけり
2. 「筑波嶺の 峯より落つる みの川 戀ぞつもりて 淵となりぬる」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 源重之
ウ 祐子内親王家紀伊
イ 紫式部
エ 陽成院
3. 「かささぎの 渡せる橋に おく霜の しろきを見れば 夜ぞふけにける」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 権中納言定頼
ウ 藤原義孝
イ 大中臣能宣朝臣
エ 中納言家持
4. 「みよし野の 山の秋風 小夜更けて」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 故郷寒く 衣うつなり
ウ むべ山風を あらしといふらむ
イ 海士の小舟の 綱手かなしも
エ ただ有明の 月ぞ残れる
5. 「諸共に あはれと思へ 山ざくら」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア をとめの姿 しばし留めむ
ウ 我が立つ袖に 墨染の袖
イ 流れもあへぬ 紅葉なりけり
エ 花よりほかに 知る人もなし
6. 決まり字「やえ」の歌の下句はどれでしょう。
ア 人にはつげよ あまの釣舟
ウ あはれ今年の 秋も去ぬめり
イ ねやのひまさへ つれなかりけり
エ 人こそ見えね 秋はきにけり
7. 「戀すてふ わが名はまだき 立ちにけり 人知れずこそ 思ひそめしか」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 式子内親王
ウ 紀貫之
イ 壬生忠見
エ 貞信公
8. 「かささぎの 渡せる橋に おく霜の」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 戀に朽ちなむ 名こそ惜しけれ
ウ 人こそ知らね 乾く間もなし
イ 海士の小舟の 綱手かなしも
エ しろきを見れば 夜ぞふけにける
9. 「八重葎 しげれる宿の さびしきに 人こそ見えね 秋はきにけり」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 赤染衛門
ウ 権中納言敦忠
イ 恵慶法師
エ 能因法師
10. 「陸奥の しのぶもちずり 誰故に みだれ初めにし 我ならなくに」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 陽成院
ウ 順徳院
イ 河原左大臣
エ 二条院讃岐

答え（百人一首クイズ・二字決まり）

1回目

1. ウ 人こそ見えね 秋はきにけり
2. イ ねやのひまさへ つれなかりけり
3. イ 今ひとたびの みゆき待たなむ
4. ウ 順徳院
5. イ 憂きに堪へぬは 涙なりけり
6. イ つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける
7. ウ 藤原道信朝臣
8. ア 身をつくしても 逢はむとぞ思ふ
9. エ 蟬丸
10. ウ はげしかれとは 祈らぬものを

2回目

1. エ 戀に朽ちなむ 名こそ惜しけれ
2. エ かけじや袖の ぬれもこそすれ
3. イ 行方もしらぬ 戀の道かな
4. ウ 権中納言匡房
5. エ 忍ぶることの 弱りもぞする
6. エ 紅葉の錦 神のまにまに
7. エ から紅に 水くくるとは
8. ウ なほ恨めしき 朝ぼらけかな
9. ア 衣かたしき 獨りかも寝む
10. エ しづごころなく 花の散るらむ

3回目

1. イ 世に逢坂の 関はゆるさじ
2. エ 陽成院
3. エ 中納言家持
4. ア 故郷寒く 衣うつなり
5. エ 花よりほかに 知る人もなし
6. エ 人こそ見えね 秋はきにけり
7. イ 壬生忠見
8. エ しろきを見れば 夜ぞふけにける
9. イ 恵慶法師
10. イ 河原左大臣